

平成29年度 山口県立岩国総合高等学校 学校評価書 校長(金石 芳朗)

1 学校教育目標			
教育目標	○たくましく生きる力の育成	○個性豊かに生きる力の育成	○心豊かに生きる力の育成
中・長期目標	校訓「自立」の具体化を図り、時代の変化や社会の進展に対応できる人間の育成		
めざす教育の方向性			
○めざす学校像 ・一人ひとりの夢の実現をめざす。 ・新しい教育スタイルを常に求める。 ・地域社会に貢献できる人材を育てる。			
○育てたい生徒像 21世紀をたくましく生き抜き、自立した人間として社会に貢献できるよう、「自ら」を基本姿勢とし、「学ぶ力」「考える力」「表現する力」「行動する力」と「生涯学び続ける力」を身につけた生徒			

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)			
<p>昨年度はやまぐち総合教育支援センターの支援を受けて、「主体的に学ぶ力を育成するための指導の工夫」をテーマに年間を通して研修を行った。中高連携教育研修会や校内研修の一環としてアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた研究授業・研究協議を多くの教科で行い、授業力向上に取り組んだ。授業研究や授業改善を今年度も継続し、基礎・基本の定着とそれらを活用する力の育成に全教職員で取り組む。また、スタディ・サブリを全校で効果的に活用し、朝学や家庭学習の充実を図り、本年度のチャレンジ目標『主体的に学ぶ力の育成 ～学習習慣の確立と考える力の育成～』に繋げる。</p> <p>また、総合学科の特色を生かしたキャリア教育が組織的・系統的に推進されるよう全体計画等の見直しを行った。今年度は、それを踏まえて各年次に応じたキャリア教育を推進することで、生徒一人ひとりの将来の職業選択を視野に入れた主体的な学習意欲を促し、進路実現に繋げる。</p> <p>タスクフォースやワーキンググループ委員会を招集し、学校の課題への迅速な対応や学校の活性化に繋げることができた。今年度は家庭、地域や関係機関との連携を強化し、さらに迅速で組織的な学校課題の解決を図りたい。また、コミュニティ・スクール導入に向けた関係機関や地域との連携・協働を活性化したい。</p>			
<p>1 学習指導(教務)・・・基礎学力の充実を図るとともに、生徒の主体性を育てる授業展開の在り方について研修に努める。</p> <p>2 生徒指導(生徒)・・・規範意識の必要性や理解、醸成を粘り強く、全教員の意識を高めて継続的に、生徒に指導していく。</p> <p>3 進路指導(進路)・・・適切な進路情報の提供とともに、個人面談等、個に応じた進路指導を行い、満足度の高い進路決定を目指す。</p> <p>4 安心・安全な学校(保体)・・・清掃活動(ボランティア活動を含む)の強化・校内外の必要な場所への照明の設置・校内外の備品等の点検・補充交換を急務とする。</p> <p>5 学校運営・業務改善(教頭)・・・情報発信を質・量ともに充実させ、地域とのつながりを一層強化する。業務改善を進め、風通しのよい職場環境を構築する。</p>			

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題			
【学校運営の視点】			
①自ら進んで学び行動する力を育成する。 ②夢の実現に向けて一人ひとりを支援する。 ③チーム岩国総合高校として組織的に取り組む。			
【チャレンジ目標】			
○ 主体的に学ぶ力を身に付ける ～ 学習習慣の確立と考える力の向上 ～			
【重点目標】			
①学習意欲の醸成 ②基礎・基本の定着と活用する力の育成 ③表現する力や行動する力の向上 ④体験活動や地域貢献活動の充実 ⑤積極的な情報発信と関係機関との連携			
※ すべての教育活動において、チャレンジ目標に取り組み、5つの重点目標の達成を図ることで、本校総合学科の特色ある教育の深化・充実を進める。			

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導(教務)	学習意欲を醸成し、基礎・基本の定着と活用する力を育成し、表現する力や行動する力を向上させる指導(教務)	授業の相互公開や授業アンケートを踏まえた授業改善により、「分かりやすい授業」を目指し、基礎・基本の定着と、それらを活用する力の育成を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	課題・小テストの実施等、基礎的な事項の理解や学力の定着に努めた。年間2回の授業アンケートで生徒の授業に臨む姿勢を把握するとともに、それを授業改善に役立てた。	先生方がよく頑張っておられる。実際、進学の実績もあがっている。	3
		主体的・対話的で深い学びを目標とし、授業の中に研究発表等の要素を取り入れるなど、自ら表現し行動する姿勢を身に付けさせる。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	授業により取組内容は異なるが、自ら課題を設定して調査し、それを発表する機会を設けるなど、アクティブ・ラーニングを意識した取り組みも見られた。		
		計画的な研修によって授業力の向上を図り、時代の変化や社会の進展に対応する。学力向上に向けたICTの活用を研究する。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	育てたい生徒像についての討議、授業改善に向けての研修、ICTの活用に関する研修など、幅広い取り組みができた。		
生徒指導(生徒)	多様性の中で自他を認め、自分自身、お互いを尊重できる力を養う。	総合学科の基本であるさまざまな選択を理解し、自己肯定感を高めるとともに、他者を認め尊重する力を向上させられる指導体制をつくる。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	日常生活や日々の学習、科目選択等において年次主任、担任の先生方の協力により、一人ひとりを大事にする指導ができた。一方で生徒が人間関係などで悩む場面も多く、これからの課題である。	日々の生活指導の中で、生徒の自主性を尊重し、自己肯定感を高めるように努力をしておられる。	3
		ルールや規範の意義をあらためて理解し、自主的な規範意識の醸成を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	2	全校での頭髪服装指導等は計画通り行えたが、生徒の自由であるべきところと、責任をもって規範を守るところの境界が曖昧だったように感じる。		
		生徒による自主的・主体的な活動を促し、支援する。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	4	生徒会の生徒を中心に活動できるように、担当教員を中心に生徒の行動、活動を促し、助言を与えながら、生徒に考えさせ行動させた。まだ完全に生徒の自主的とは言えないものの、以前より主体的能動的に活動するようになった。		
進路指導(進路)	キャリア教育の充実を図る	「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、「課題研究」を通して、自分の興味や適性を見つめ直す。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	それぞれの年次で年間計画に沿って、工夫して指導を行うことができた。また、キャリア教育アンケートを実施するなど、評価と見直しをすることができた。今後キャリア教育関係科目の一層の体系化を図れるように進めたい。	生徒たちは、本校に対して進学や就職、自分探しと様々な思いを持っている。学校評価アンケートの結果からそれぞれの思いが達成できていると考えてよい。	3
		模試前後の指導、小論文指導、面接指導など生徒に応じた指導を行う。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	2	模試年間計画や各模試ガイド一覧の作成、早めの受験案内をするなど、生徒の意識を高める指導を行った。受験者の増加も特に見られないため、今後実施する模試の精選をする必要がある。		

保健体育(保体)	体力・健康の維持及び向上	規則正しい生活習慣(学校生活・家庭生活)を確立させる。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	生活習慣については、常時生徒に意識改革を植え付けていくことに努力してきたが徹底できないことも多々あった。まず、挨拶・返事・言葉遣い等要求されるのではないかと思われる。社会人になる前段階での意識が低いように感じられる。	青木海岸の清掃ボランティアには、年々参加者が増えている。来年度は学校運営協議会の仕組みを利用して、より地域の方々と連携する場面が増えていくと期待できる。	3
	環境教育の充実を図る	清掃活動への積極的な取り組みを行い、学校全体の環境美化に努める。(月末大掃除ボランティア活動を含む)	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	2	清掃活動については、本校の毎年の課題であると思われる。学校の美化に対する意識が薄いように感じられる。しかしながら、ボランティア活動については、積極的に取り組む生徒が増えた。		
	防災教育の充実を図る	毎月の点検や防災訓練を通じて防災への意識を高め実生活に生かす。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	防災教育については、年間3回の防災訓練を含めて安全に配慮し確実にを行うことができた。毎月の各部署での安全点検の意識の向上に向けて来年度は取り組みたい。		
学校運営(教務)	情報発信における情報の質を高める(教務)	学校HPやその他の情報発信における情報の充実化を図るとともに、個人情報取扱いへの対応を探る。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	HPについて、時間の許す限り取り組めた。ただ、情報発信内容に更なる更新の要求があり、個人ではとても対応できないので、HPのリニューアルを外注することとした。	課によっては厳しい評価のところもあるが、概ね学校運営に関して組織的に取り組んでおられる。	3
学校運営(生徒)	業務内容の精選と重点化(生徒)	個々の業務内容を整理するとともに、共有のファイルフォルダー、生徒指導室の資料を整理する。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	1	生徒課のファイル整理、生徒指導室の資料整理等は時間の都合でできなかった。次年度以降の課題である。		
		定期的に課会を開き、業務についての状況把握と改善に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	2	必要な部分では生徒課会を開き、生徒課教員による共通理解をはかったが、昨年度に比べて課会の回数は少なくなった。課の中の各係の連携、共通理解をもっと図る必要がある。		
学校運営(進路)	校内の協力体制の強化(進路)	業務内容の見直し・改善を行い、効果的な進路指導を進める。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	進路関係の各種業務の年間計画を作成するなど、合理化を図った。年々業務量が増加しているため、必要な業務の精選が必要である。各年次、総合学科推進班との連携を密に行うことができた。進路課だけでは間に合わない仕事もあり、必要に応じて年次の協力もいただいた。		
		分掌内、他分掌、年次との連携を密にする。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。				
学校運営(保体)	業務の記録と受け継ぎ(保健体育)	報告・連絡・相談に努め、連携を強化する。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	各種行事においては、課員がほぼ協力して実施することができた。反省を含めたミーティングも積極的に行うことができた。また、授業研究にも本年度は力を入れ研修することができた。さらに、本年度は運動会を6月に実施ということで行事の見直しをすることができた。		
		業務内容、実施の時期、手順、改善策等について記録を残す。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。				
学校運営(推進班)	「スタディサプリ」の運用と活用を進め、学力の定着や伸張を図る。	「スタディサプリ」を活用した指導が年次や教科と協力してできるようにするとともに、よりよい運用方法を探る。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	週末課題の配信と朝スタでの活用や課題配信が定着した。学力低下の度合いが幾分改善している。課題への取り組みをより促すなどして、家庭学習の習慣化をはかることが大きな課題である。また、教科での活用はまだ十分とは言えず、活用法をさらに探ることが家庭学習の充実の面からも必要である。		
業務改善	学校の組織等		4: TFやPTをを5回以上立ち上げ、学校課題を解決することができた。 3: TFやPTをを4回以上立ち上げ、学校課題を解決することができた。 2: TFやPTをを3回以上立ち上げ、学校課題を解決することができた。 1: TFやPTを回以上立ち上げることができなかった。	3	学校課題に対して、タスクフォースを招集し、組織的、迅速な対応をすることができた。	学校としても業務改善に向けて様々な取組を行っておられる。	3
	学校課題への迅速かつ組織的対応を推進する	タイムリーにタスクフォース(TF)やプロジェクトチーム(PT)を立ち上げて課題への迅速かつ組織的対応を進める。					
	日常的な業務		4: 十分な推進ができた。 3: ほぼ推進することができた。 2: 推進が不十分であった 1: 推進ができなかった。	3	学校行事の開催時期を昨年度から変更することで、8月下旬から9月上旬の暑い時期に集中していた業務を改善することができた。また、業務の効率化に係るアンケートを実施し、教職員からの声を聞くことはできた。また、効率化に向けた話し合いができた。来年度に向けて、実現したい。		
	業務改善を推進する	業務の効率化に係る提案をするとともに、教職員からの声を積極的に反映する。					

1 年次	基本的な生活習慣を身につける	学年全体で年間を通じて投げかけていく。	4: 十分な取り組みができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取り組みが不十分であった 1: 取り組みができなかった。	3	この目標をクリアできないと、次の目標に進むのは難しいと改めて感じた。逆に言うと、これができれば目標設定範囲が広がる。出来ていない生徒から目を背けるのではなく、全員を対象に、引き続き取り組んでいきたい。	各年次で工夫を凝らして、とてもきめ細かい指導ができてい	3
	自ら考え自ら動く力の育成	学年全体で年間を通じて投げかけていく。	4: 十分な取り組みができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取り組みが不十分であった 1: 取り組みができなかった。	3	上記目標もそうだが、学年はもとより、学校全体で取り組むべき課題である。自主性・主体性という名の放置にならないよう、さまざまな場面で一層の創意工夫を行い、力を伸ばしていきたい。		
2 年次	自ら考え、主体的に取り組む姿勢の涵養	自らを律することへの働きかけ	4: 十分な取り組みができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取り組みが不十分であった 1: 取り組みができなかった。	3	内発的な動機によるものへと、徐々に高まりつつある。		
		横断的に学習する機会の設定	4: 十分な取り組みができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取り組みが不十分であった 1: 取り組みができなかった。	3	学力や教養が総合的に身につくことを、生徒は実感しつつある。		
	互いを認め合う気風の醸成	バズセッション等による相互啓発	4: 十分な取り組みができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取り組みが不十分であった 1: 取り組みができなかった。	4	抽象的な本質的な内容に関する討議も可能になりつつある。		
		年次の取り組みとしての自治的活動	4: 十分な取り組みができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取り組みが不十分であった 1: 取り組みができなかった。	3	主体的な取り組みは習慣化しつつあるが、自治的なものには至っていない。		
3 年次	基礎学力を向上させ、主体的に学習に取り組む姿勢を身につけ、希望する進路の実現を図る。	スタディサプリの視聴徹底を図り、基礎学力を向上させる。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3	担任団の一致した指導のもと、生徒視聴時間を管理し、取り組みの不十分な者は課題を与えるなどして学習の習慣化につとめた。スタディサプリアを活用して基礎学力の向上につとめ、生徒自らが視聴する姿勢を持ち始めたことも感じられた。面談等を繰り返すことの結果、生徒の望む進路実現をある程度達成したのではないかとと思われる。		
		主体的に取り組む姿勢を確立し、自らの将来と職業を考える機会を積極的に作り出す。	4: 十分な取組ができた。 3: ほぼ取り組むことができた。 2: 取組が不十分であった 1: 取組ができなかった。	3			

5	学校評価総括（取組の成果と課題）
<p>チャレンジ目標『主体的に学ぶ力の育成 ～ 学習習慣の確立と考える力の育成 ～』に向けて、全教職員で授業研究や授業改善に取り組んだ。全校でスタディ・サプリアを導入し、それを活用して、朝学や家庭学習の充実を図った。また、学校行事（運動会、文化祭）の開催時期を変更することで、業務改善を推進することができた。更に、総合学科推進班が中心となって、本校総合学科で育てたい生徒像やキャリア教育、校務分掌の見直しなどについて議論する会議（ASK委員会）を開催することができた。</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中高連携教育研修会（英語）や初任者研修などの機会を捉え、生徒の主体的な学びに繋がる授業を展開しようと授業改善に取り組んだ。それが、各教科の自主的な取組に広がっている。</li> <li>○生徒自らがスタディサプリアを活用して基礎学力の向上につとめる姿勢を持ち始めた。</li> <li>○キャリア教育の視点に立った学校行事の見直しが更に進んだ。</li> <li>○育てたい生徒像について全教職員の合意が得られ、来年度からの具体的な取組繋げることができる体制が整った。</li> <li>○課題が見えた段階でタスクフォースを招集し、情報を共有しながら迅速に対応することができた。</li> <li>○SCやSSW、児童相談所、県警サポートセンター等の外部機関との連携を進め、チーム岩国総合高校として問題解決を図ることができた。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○規範意識を高める取組は即効性を求めず、今後も粘り強く進めていく必要がある。</li> <li>○やまぐちエコ・リーダースクールの取組は、今後、地域との連携を進める上で重要になる。学校運営協議会との連携をすすめ、生徒一人ひとりの主体的な活動に繋がるように工夫が必要である。</li> <li>○本校総合学科の柱となるキャリア教育の体系的な整備が必要である。すべての教育活動を通して生徒一人ひとりの「自立」に向けて取り組んでいきたい。</li> </ul>	

6	次年度への改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○特色づくり、魅力づくり・・・ASK委員会を定期的に開催し、取組の進捗状況や成果、問題点を確認しながら進めていきたい。</li> <li>○生徒指導・・・開発的・予防的生徒指導を推進し、規範意識の醸成やいじめの未然防止をめざす。</li> <li>○キャリア教育の充実・・・キャリア教育推進リーダーが機能し、取組の意義や目的が担当教員に理解された上での、3年間を見通した計画的・系統的な取組を進める。</li> <li>○学力の向上・・・スタディ・サプリアを全校で効果的に活用し、朝学や家庭学習の充実を図り、学力向上につなげる。 本校で育てたい生徒像実現に向けた授業改善への取組をさらに進める。</li> <li>○地域との連携・・・コミュニティ・スクールを導入し、社会や地域に学校を開き連携を進め、本校教育活動に生かす。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習指導（教務）・・・基礎学力の充実を図るとともに、生徒の主体性を育てる授業展開の在り方について研修に努める。</li> <li>2 生徒指導（生徒）・・・規範意識の必要性や理解、醸成を粘り強く、全教員の意識を高めて継続的に、生徒に指導していく。</li> <li>3 進路指導（進路）・・・適切な進路情報の提供とともに、個人面談等、個に応じた進路指導を行い、満足度の高い進路決定を目指す。</li> <li>4 安心・安全な学校（保体）・・・清掃活動（ボランティア活動を含む）の強化・校内外の施設整備を進める。</li> <li>5 学校運営・業務改善（教頭）・・・情報発信を質・量ともに充実させ、地域とのつながりを一層強化する。業務改善を進め、風通しのよい職場環境を構築する。</li> </ol>	